

みんなが安心して道路を使えるようになるためには

JF好き C1250266 石井陸

A) 他チームの発表を聞いて

自分たちのチームにない解決策を提案し、参考になったのは、「2班」と「40班」だ。2班は、特に注意が必要な場所を中心に音や光を使って運転者に注意を促すレインボーロードの設置という解決策を提案しており、音や光を使って運転者に注意を促すという考えが参考になった。40班は、インフラ対策、車の運転手・自転車向けの接触事故の解決法など幅広い解決策を述べていた。その中で参考になったのは、道路構造の改善について述べていることであり、具体的には、自転車レーンを車道と明確に分離するといった案や、歩道と自転車道も分離すると言った案、左折巻き込み防止のための自転車用待機スペース、歩行者信号の先行青だ。

B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見

自分たちのチームでは、問題の原因として、日常的に自転車を運転しているため、慣れから注意が不足する、自分は事故に遭わないという思い込みをしてしまう、自転車で事故に遭っても車の事故と違って死なないだろうと被害の大きさを過小評価する、自転車で危険運転をすると考えていたが、40班の発表を踏まえて、みんなが安心して使える道路に整備されていないという事を追加する。これを踏まえると、課題は、「注意不足にならないためには」「事故に遭わないという思い込みをなくすには」「被害の大きさを過小評価しないようにするためには」「危険運転をなくすためには」「みんなが安心して道路を使うためには」の5つが設定される。これらを共通して解決するためには、道路を使うあらゆる人の視点が大切になってくると思われることから、ビジョンとして、「事故発生率が低い市酒田」を設定した。チームで検討した際はビジョンを「かもしれない自転車運転を心がける」としていたことから、「車やバイクの運転手や歩行者」の視点が追加されたことになる。このビジョンを踏まえて解決策を考えると、「注意不足にならないためには」、「事故に遭わないという思い込みをなくすには」、「被害の大きさを過小評価しないようにするためには」、「危険運転をなくすためには」という課題には、自分たちのグループでも提案した解決策のVRやスタントマンを使って擬似的に事故を体験または体感できる交通安全教室の実施に加え、2班の音や光を使って運転手に注意を促すレインボーロードを設置するという解決策が有効だと考えられる。続いて「みんなが安心して道路を使うためには」という課題には、40班の自転車レーンを車道と明確に分離する、歩道と自転車道も分離するといった案や、左折巻き込み防止のための自転車用待機スペース、歩行者信号の先行青といった解決策が有効だと考えられる。交通安全教室の実施により、安全意識を高めやすい、事故の恐ろしさを身をもって知ることができる、他人事ではなく自分事と

して捉えることができると考えられる。また、レインボーロードの設置により音や光が全身から飛び込んでくるため目が覚めたり、高齢者でも気づいたりすることができるため事故や不注意の防止に繋がる。続いて、40班の自動車・自転車・歩行者が安全に共存できる交通環境を整備するという解決策によって、交通事故の減少と重傷事故の大幅な抑制が期待される。理由としては、車道・自転車道・歩道を明確に分離し、交差点の安全性を高めることで、接触の機会そのものが減り、特に高齢者や子供といった弱者の安全が確保されやすくなるため、歩行者や自転車が安心して利用できるようになるからだ。そうなることで、住民の移動手段が多様化し、車に依存しない暮らし方が広がるといった効果も期待される。自転車の運転手だけでなく、車の運転手、歩行者の期待される効果が考えられる解決案が出たため、自チームでの検討時に加えて、交通事故の減少がより期待できるようになった。ただし、課題もたくさんあり、時間や予算の制約があるため県や地域により体験内容に差がやすい、同じ事故体験を繰り返すと初回ほどの効果が得られにくいという課題には、小・中・高で体験内容を変えると工夫が必要になり、レインボーロードも近隣住民にとっては、夜間の音や光がストレスになる可能性があり、運転手が常に音や光があるとその刺激に慣れ、肝心なときに注意を払わなくなるという恐れや、莫大な費用とメンテナンスが必要になるといった課題がある。そのため、車や自転車の運転手や歩行者に意見を募り、多くの危険だと声が上がった場所に絞ってレインボーロードを設置したり、レインボーロードのメンテナンス日を設定し、その日はレインボーロードが使えないという日が定期的にあると、慣れがリセットされ、不注意になりにくくなるといった事が考えられる。他にも、40班の解決策の課題には、インフラ整備にかかる費用や時間、住民の理解不足などがあり、地域の状況に合わせて段階的に取り組むことを検討する必要がある。

- ① 採点結果返却希望です。
- ② 連絡先 ayit90725@docomo.ne.jp